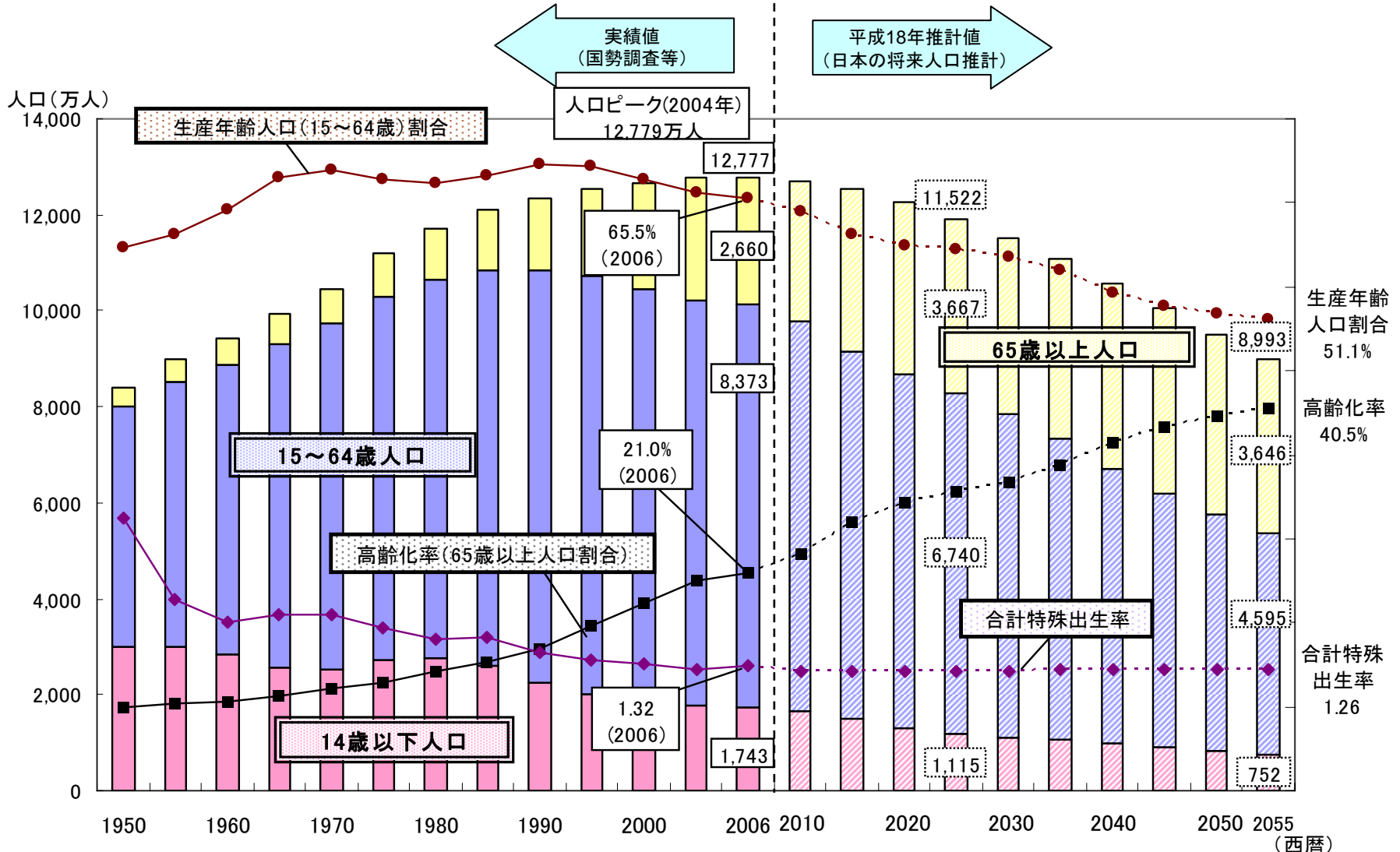


看護の状況等について

人口等の推移について

# 我が国の人口推移

○我が国の人口は2004年にピークを迎え、減少局面に入っている。2055年には9000万人を割り込み、高齢化率は40%を超えると推計されている



資料: 2005年までは総務省統計局「国勢調査」、2006年は総務省統計局「推計人口(年報)」、2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)中位推計」

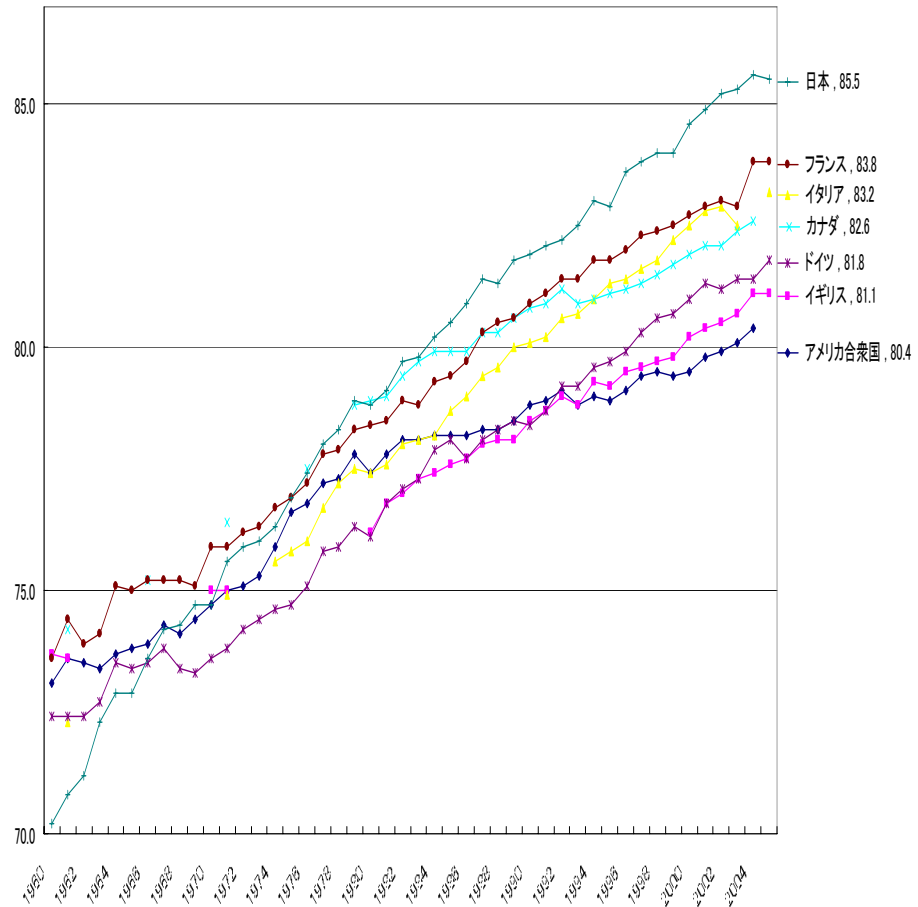
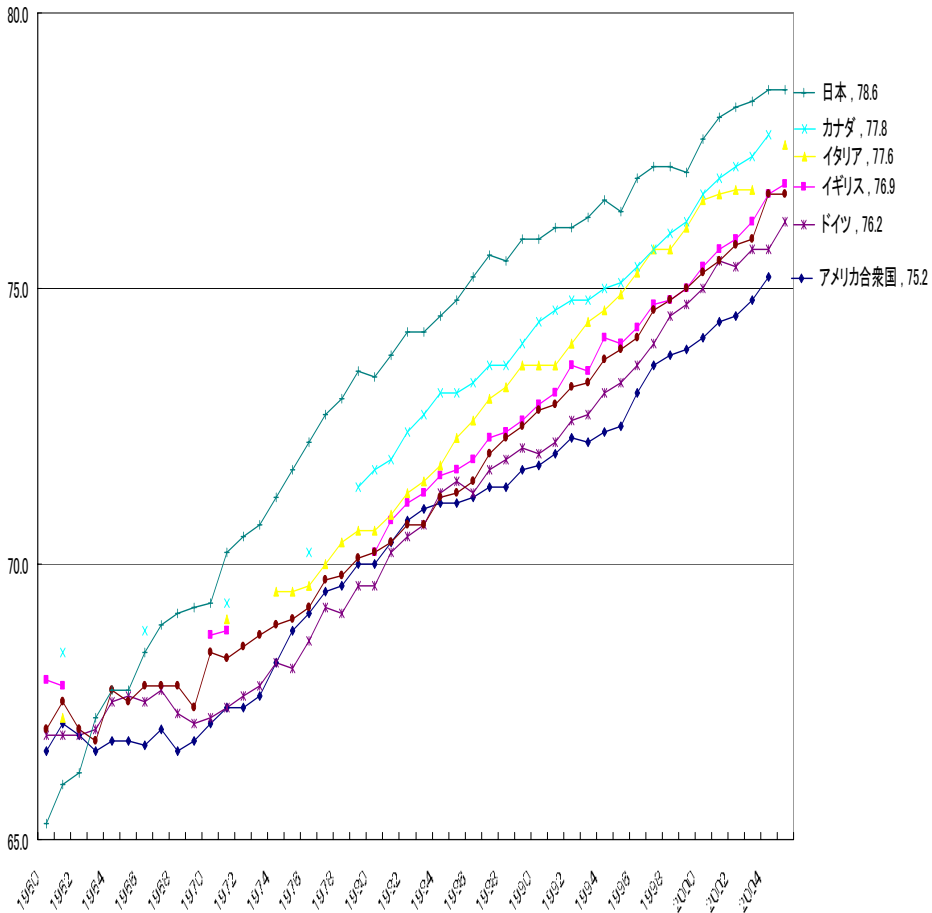
# 平均寿命の推移

男性の平均寿命は、60年代後半以降G7諸国で最も長くなっており、2005年時点で78.6歳となっている。

女性の平均寿命は、80年代後半に80歳を超えてG7諸国の中で最長となり、2005年時点で85.5歳に至っている。

G7諸国の平均寿命(男性)

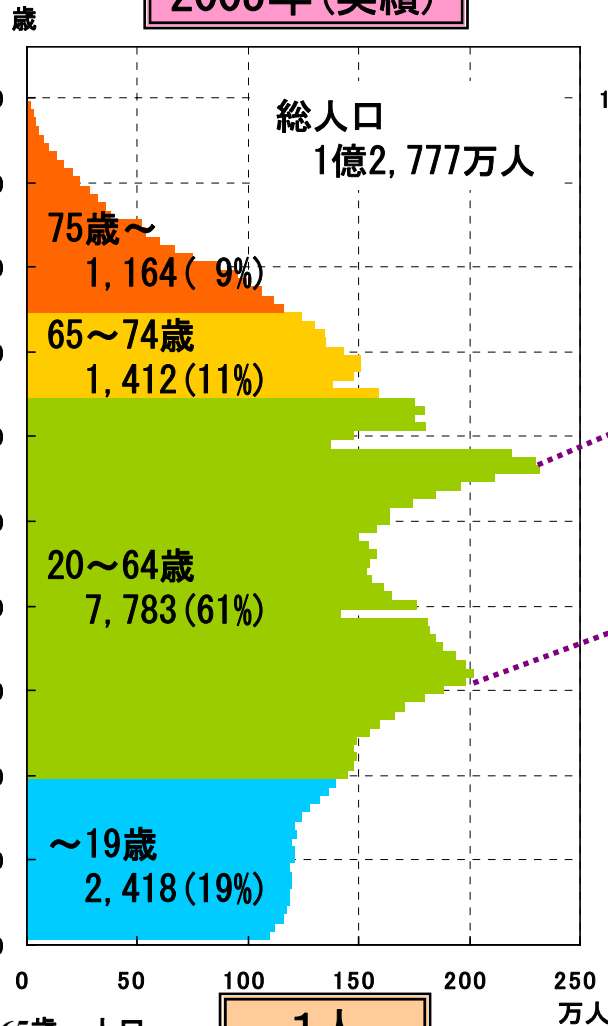
G7諸国の平均寿命(女性)



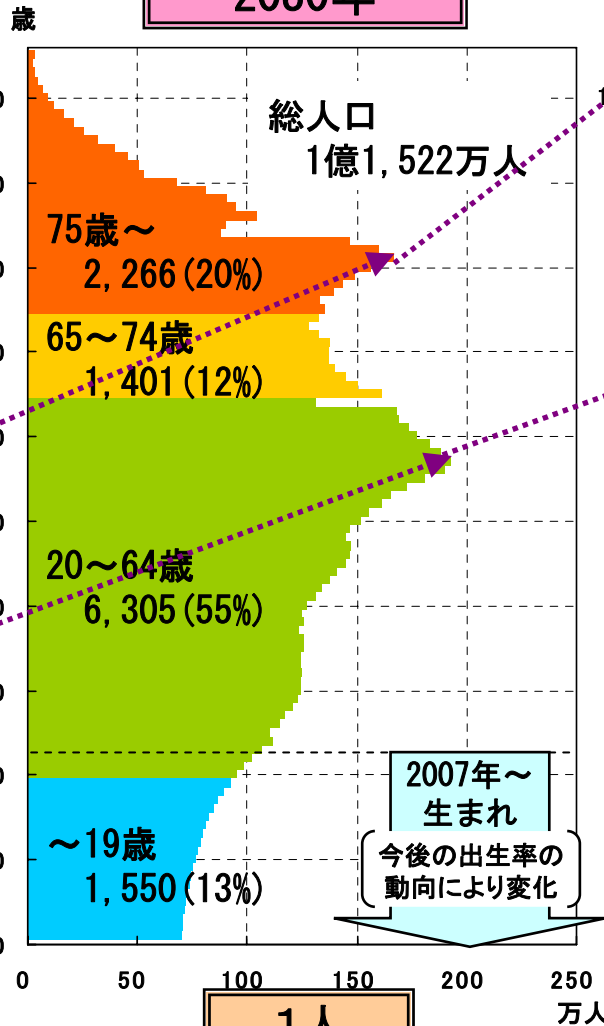
# 人口ピラミッドの変化(2005, 2030, 2055) - 平成18年中位推計 -

○我が国の人口構造の変化を見ると、現在1人の高齢者を3人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する2055年には1人の高齢者を1.2人で支える社会構造になると想定

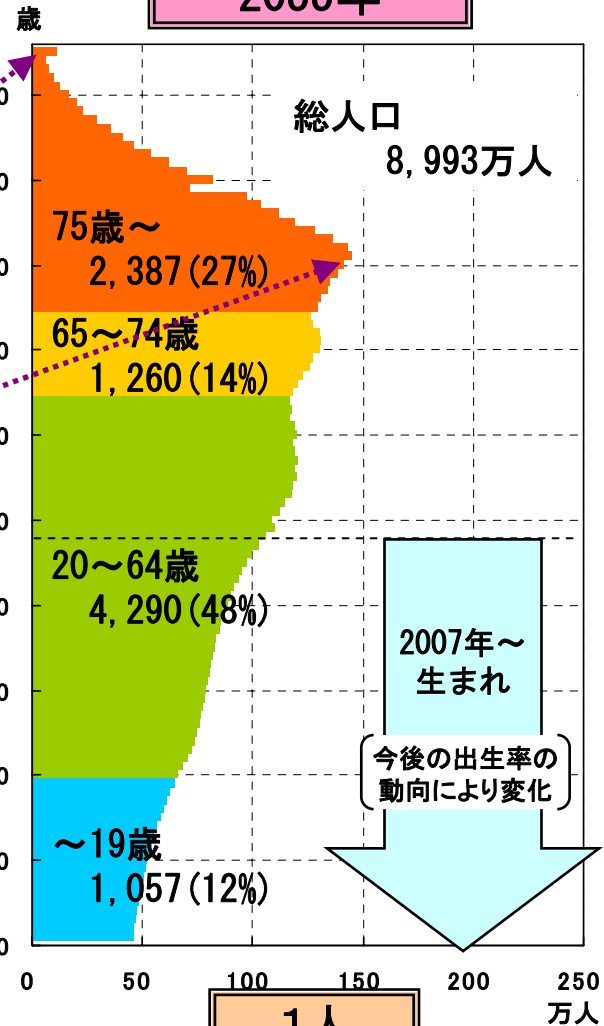
2005年(実績)



2030年



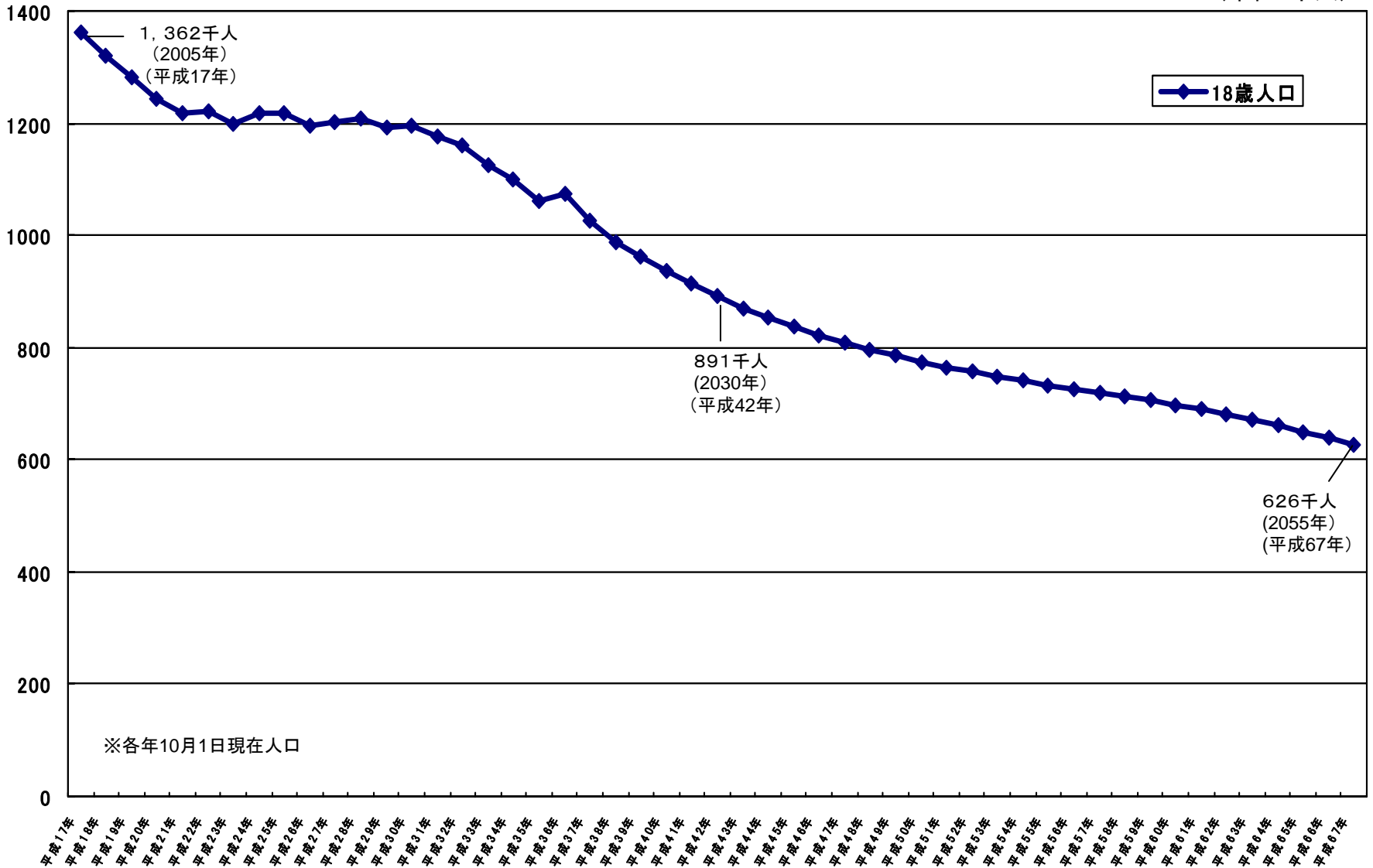
2055年



注: 2005年は国勢調査結果(年齢不詳按分人口)。

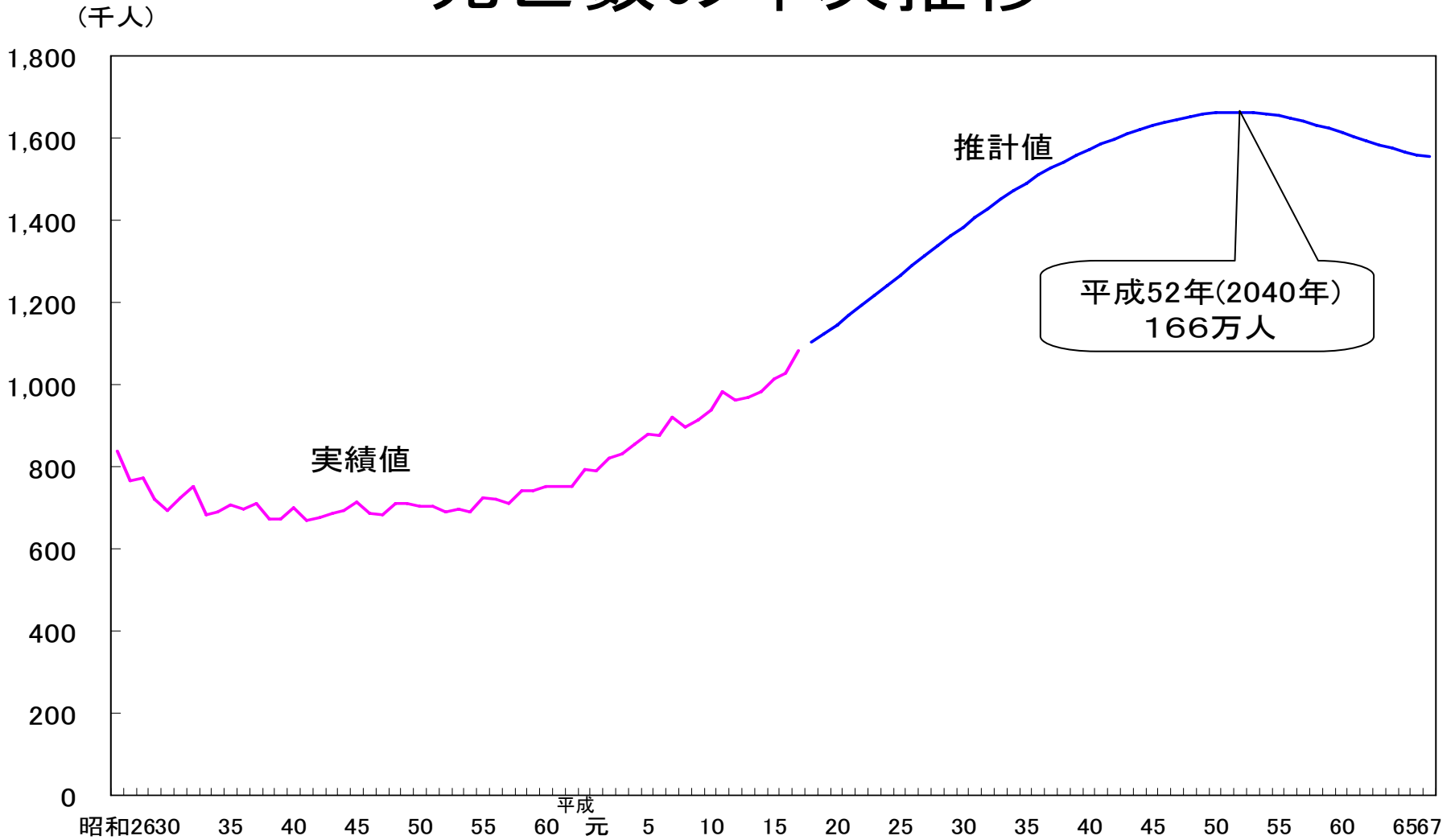
# 18歳人口の推移

(単位:千人)



出典:「日本の将来推計人口」(平成18年12月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

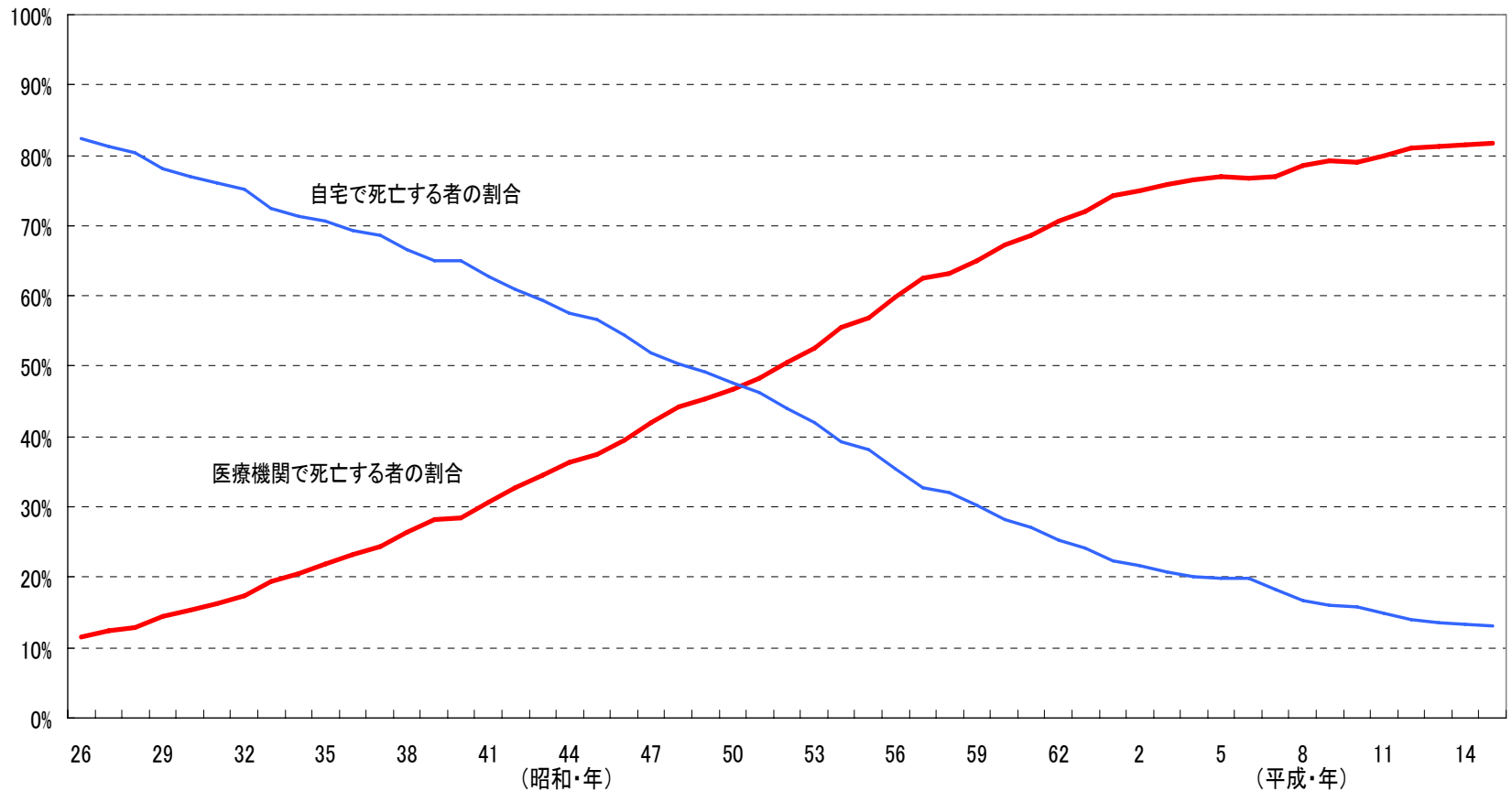
# 死亡数の年次推移



資料) 平成17年までは厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」  
平成18年以降は社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」(出生中位・死亡中位)

## 医療機関における死亡割合の年次推移

- 医療機関において死亡する者の割合は年々増加しており、昭和51年に自宅で死亡する者の割合を上回り、更に近年では8割を超える水準となっている。



資料:「人口動態統計」(厚生労働省大臣官房統計情報部)